

番号	83	鹿城川改修記念碑 佐賀県議会副議長 大塚清次郎謹書		
所在地	鹿島市高津原 蟻尾山公園			
災害別	昭和37年(1962) 水害			
目的別	記念碑	建立年	昭和60年3月	
特記事項				



鹿城川は、元々は高津原水道と呼ばれ、水の便が悪い高津原台地に中川から水を引くため、鹿島三代藩主鍋島直朝公の時代、1663年から1672年にかけて築かれたと言われている。鹿城川は、昭和37年7月8日のいわゆる七八水害で大きな被害を受け、碑には、その時の被害の様態と復旧工事について記されている。この碑は、昭和53年から実施された改修工事の完成を記念して蟻尾山公園入口の溜池堤上に建てられている。



なお、碑文は石材の材質上、一部読み取りにくい箇所があるため、峰松正輝著「能古見史誌」（平成27年6月28日）掲載の一部を引用した。

「事業沿革 鹿島三代藩主鍋島直朝公は特に力を民生に盡くし 比類なき名君であった、高津原台地に溜池を構築し 其の水源を西三河内に求め 寛文三年より工を起し 同十二年に難工事の末 俗稱水道が完成し、住民の用水及び灌漑用に供す。時代の変遷により昭和七年 区の先輩古老の並々ならぬ努力により 県の準用河川に昇格して

鹿城川と改名し 県の援助を受け、高津原区は農家の生命線として、これが維持管理に当る。

昭和十四年の大旱魃の際 高津原台地は収穫皆無となり 農家は困窮し水利関係に塗炭

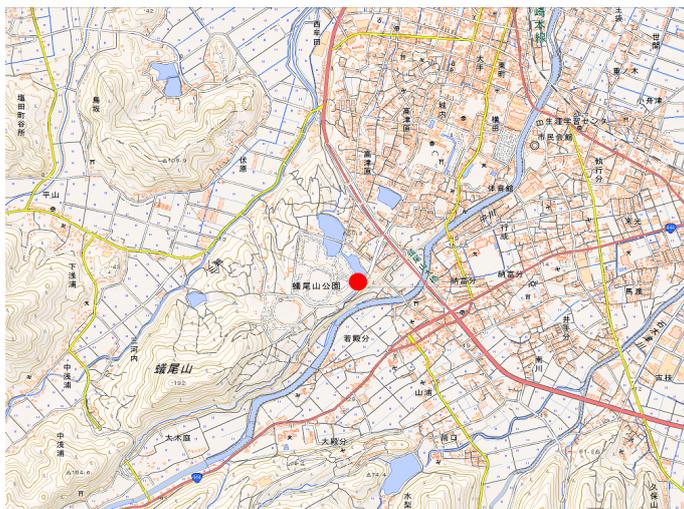


の苦しみを味わふ。其の他大小幾多の災害に逢ふ。特に昭和三十七年七月八日未明 大水害を蒙り一瞬にして鹿城川決壊 及び埋没三十数箇所 板井手も決壊す。市及び県に報告すると共に 緊急農家総会を開き 農家総出により応急工事を実施す。全員一丸となり日夜を問わず献身的努力により 七月十五日夕刻 鹿城川に待望の用水が流入し、農家一同歓声を挙げて感激す、尚井堰は県市当局と協議の上 百米上流の位置に設置する。その水利権は八ヶ区の区長の承諾書を受領す。

七八水害後高津原は台地の開発により環境が一変し、農家戸数及び労働力が減少し、鹿城川の維持管理にも多大なる支障を生ず。ここに青壮年等が相計り 大塚県議にその対策を懇請す。

昭和五十三年より県の単独事業として三面張補修工事を実施し、昭和六十年三月完成に至る、工事は県当局の周到なる計画と指導並びに農家の絶大なる協力により順調に進捗す。大塚県議の予算獲得に対する献身的な御盡力を讃えると共に県並びに市当局に対し深甚なる敬意と感謝の意を表す。

ここに農家の総意を結集し、先人の偉業を偲び 鹿城川の沿革及び改修工事を記念し子孫へ永く伝承する為に この碑を建立す。 昭和六十年三月吉日 高津原区民一同 高津原区長 松本九州男」(原文はカタカナ表記) 工事概要等(略)



国土地理院電子国土 Web

